

江差線 2014.5.11 Last Run

5月11日、廃線を迎えた江差線
その足跡をたどりながら様々な記念イベントが行われました。

江差線のラストランを飾る「大漁旗さよなら隊」は大盛況!!

さわやかな春晴れのもと、沿線町内会の方々、町民の方々、町外の鉄ちゃんなど、200名をこえる方々が集まってくれました。90歳をこえるおばあちゃんも杖おをつきながら来てくれました。皆さんの地域の歴史に対する思い・・・嬉しかったね～感動しました!!

正午前踏切の警報音が鳴る、「来たぞ～」の声とともに、100本の大漁旗が青空に舞う・・・「ありがとう」「さようなら」人々の声が鈍い列車の音と交差する。何故かみんな晴れやかな顔をしている。間違いなく江差線は姿を消しても必ず語り継がれるにちがいない。「私たちは決して江差線を忘れない」そう確信した。



5月11日午後8時50分、定刻を少し遅れて木古内駅の4番ホームを列車がいつもと同じように出発した。しかし、ホームには溢れんばかりの人、フラッシュが次々とたかれ誰もが手を振る。列車も満員、互いに全く見知らぬ者同士でありながら乗客も窓から身を乗り出して手を振る。78年の歴史を終える江差線のホントに最後のラストランの光景・・・消えゆく歴史の重さと温もりのなかで列車は静かに暗闇に消えていった。



笑顔と涙で見送り

鉄道ファン 大漁旗振る

渡島鶴岡駅周辺では、地が大漁旗を振り、列車を見送るイベントが開かれた。作の対応委員会が主催し、



渡島鶴岡駅を出発する列車を見送るために振られた大漁旗（午前11時55分ごろ）

終100人が集まった。一時に行われる予定だった空気を掲げるイベントは、の影響で中止となったが、本古内・知内ライオンズクラブが用意した「ありがとう江藤線」と書かれたのり紙は、高所作業車で掲げられ、雲間を覗出した。

午前11時50分ごろ、本内発江藤行きの列車が近くと、同乗メンバーの急いで一面に旗が振られた。到着後、車内から手を振る乗客に心え再び振られ、発車時は「ありがとうさよなら」との声も飛び交い、最も大きく旗が振られた。

参加した同町本町の主婦鈴木みづきさん（65）は、「家族を送迎する場面が象に残っている。今日のような形で見送りでき良かった。感謝するものがありました。千葉県成田市の主婦亀田美沙子さん（42）は「自分は笑顔で手を振ったが、隣の高齢者涙を流していたのを見て、たれた」と話していた。夜には同じ場所約50人が集まり、ペンライトを振り本古内発の最終列車を送った。

（山崎純一）